



Title	Osaka Literary Review 掲載論文一覧(1962-1990)
Author(s)	
Citation	Osaka Literary Review. 1991, 30, p. 5-21
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/25436
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

Osaka Literary Review

掲載論文一覧 (1962—1990)

No. 1 (1962)

- 斎 藤 俊 雄 *The Anglo-Saxon Chronicle* の Parker MS に見られる関係代名詞について
- 藤 田 実 シェイクスピア史劇における‘crown’の観念
- 藤 井 治 彦 *Lycidas* — ひとつの解釈
- 渡 辺 孔 二 スワイフトのプライド観 (I)
- 藤 田 繁 *The Return of the Native* に於ける葛藤について
- 森 晴 秀 *The Rainbow* の構造 —— イメージの発想及び錯綜と展開
- 梅 垣 清 S. Anderson: *Winesburg, Ohio*
- 竹 内 孝 治 小説の視点とウィリアム・サマセット・モーム — 「木の葉のそよぎ」と「キャジュアライナの木」を通して —
- 耕 田 良 一 realism から expressionism へ — Sean O’Casey の場合 —

No. 2 (1963)

- 石 田 久 *Antony and Cleopatra* について
- 藤 田 実 Shakespeare 史劇研究の一つの方向 *Richard III* の場合
- 渡 辺 孔 二 スワイフトのプライド観 (II) — *The Battle* の場合 —
- 梅 垣 清 J. エドワーズの「超自然的人間」
- 耕 田 良 一 J. M. Synge: *Riders to the Sea* における‘reality’

- 森 晴秀 芸術の崩壊——「エアロンの杖」と「カンガルー」の思想と表現
Haruhiko Fujii JAPANESE POETRY AND WESTERN CRITICISM (書評)
- No. 3 (1964)
- 今井光規 *Beowulf* に見られる Nominal Compoundsについて
石田久 G. Chapman の悲劇—〈その1〉 *Bussy D' Ambois* の問題点
梶原幸夫 Enter Barnardine—*Measure for Measure* 試論—
平井 隆 *Absalom and Achitophel* の Satirical Method
渡辺孔二 スワイフトのプライド観 (III) —「スワイフト家のエピソード」—
柏木俊和 W. Blake の詩に於ける 'night' —*Songs of Innocence* と *Songs of Experience* を中心に—
耕田良一 J.M.Synge の喜劇における 'reality' —現実と夢の調和—
今沢達 *Howards End* における 'horror' について
- No. 4 (1965)
- 藤田実 Shakespeare 史劇における儀式的要素 (I)
梶原幸夫 Lucio の運命—続 *Measure for Measure* 試論—
渡辺孔二 スワイフトのプライド観 (IV) —「植物語」の場合
柏木俊和 W. Blake: *The Book of Urizen* について
神保 茜 *The Cenci* について
佐藤芳子 *The Eve of St. Agnes'* —その背景と意義—

藤田繁	<i>The Dynasts</i> の一考察—Immanent Will, Spirits, Man の関係をめぐって
耕田良一	J. M. Synge: <i>Deirdre of the Sorrows</i> —「美」と「現実」の問題—
今沢達	人間関係の形而上学: <i>The Longest Journey</i> 論

No. 5 (1966)

渡辺孔二	Swift のプライド観 (V) —「ガリバー旅行記」を中心に—
高橋弥生	<i>The Dynasts</i> に於ける「意志」の世界の芸術的表現—Spirits—
筒井均	<i>A Passage to India</i> の主題と方法
植田和文	「ガザに盲いて」について—その構成と記憶の問題—
吉田一彦	All you do is (to) press the button の語法について
藤井治彦	平井正穂著『イギリス文学試論集』研究社 昭和40年 (1965年) (書評)
Suzuna Jimbo	A Scientific Approach to Shelley's Poetry—An Introduction to <i>Shelley and Synesthesia</i> —

No. 6 (1967)

渡辺孔二	<i>The Drapier's Letters</i> をめぐって
吉田一彦	「Not that I know of.」の語法について
丸谷満男	日英語比較の一構想—翻訳基礎論の試み—
河上誓作	特殊な“S+V+O”構文における目的語およびその修飾語の機能について
大橋慶子	Whitman における南北戦争の意味

- 飯田 才太郎 補語と副詞
 岩倉 国浩 英語“S+V+O”と日本語「～を一する」, 「～に一する」

No. 7 (1968)

- Kazuhiko Yoshida *Onomatopoeia and Repetition*
 丸谷 満男 比較の意味論的考察—特に命題選択比較について
 岩倉 国浩 英文構造の透明化傾向について—語用論的意味論の立場から
 小谷 晋一郎 口語英語に於ける「～したほうがよい」の表現について
 西川 盛雄 意味の形成と構造について
 山本 哲 *Intruder in the Dust* 評価への道
 筒井 均 イタリア人の子供のこと—“The Eternal Moment”と *Where Angels Fear to Tread*
 山田 勝 オスカー・ワイルド研究：「芸術における嘘の問題」
 鈴木 俊司 ポー短編小説の評価（1）

No. 8 (1969)

- 岩倉 国浩 英語の be についての一考察
 Shinichiro Kodani THE SIMPLE IMPERATIVE
 鈴木 俊司 言語に関する二つの覚え書
 石田 久 G. Chapman の悲劇—〈その2〉
 高橋 弥生 ハーディとバトラーの比較
 森 道子 Milton とギリシア悲劇
 山田 勝 オスカー・ワイルド研究：身辺の芸術（1）
 山本 哲 現実と理想の間

前 波 清 一 ジョン・オズボーン（上）

No. 9 (1970)

- 小谷 晋一郎 Attributive Adjectiveの一考察
- 西川 盛雄 表現論 (Adv-Adj-Nom 構文について)
- 福井 三奈子 Middle English *Amis and Amiloun* と Anglo-Norman *Amis e Amilun* についての一考察
- 平井 明子 Marlowe の世界
- 森 道子 *Paradise Lost* における epic simile に関する覚え書
- 渡辺 和子 Jane Austen 研究—Bath 時代の創作姿勢をおつて—
- Itsuyo Higashinaka The Role of Food in Byron's *Don Juan*
- 山田 勝 オスカー・ワイルドにおける PURPLE の意味
- 伊豆 大和 Steinbeck と *East of Eden*
- 前波 清一 アーノルド・ウェスカ—ユートピアと現実演劇—

No. 10 (1971)

- 西川 盛雄 Synonymity 考
- 島田 守 「不定詞付対格」構文の統語分析
- 加藤 主税 反対動作と動詞の否定辞
- 福井 三奈子 Layamon's *Brut* と Wace の *Le Roman de Brut*
- 宮川 朝子 Mystery Plays に見られる Herod 像
- Itsuyo Higashinaka Byron's Triangle—Byron's View of Wordsworth and Coleridge—
- 玉井 嘉 『ドリアン・グレイの肖像』論—ワイルドのゆれ動く自己—

No. 11 (1972)

- Kunihiro Iwakura A Phonological Analysis of Numeral-Counter Compounds in Japanese within the Framework of Generative Phonology
- 加藤主税 Structural Synonymity と言語理論
- 寺村昇自 Modality の意味論的考察—序論
- 宮川朝子 Mystery Plays の Mary Magdalene
- 平井明子 "This Unnatural Scene"—*Coriolanus* の一考察
- 坂本武 *A Political Romance* の問題—Sterneにおける《書くこと》のはじまり
- 安藤幸江 「ハイピアリアン」と「ハイピアリアンの没落」の同一性と差異性——(1) テーマについて
- 玉井暉アーサー・シモンズにおける象徴主義——(1) 不安感から象徴主義へ
- 植苗勝弘 *Jude the Obscure* の一考察
- 三浦良邦 ハックスリーの探求 (1) ——初期小説について
- Kazuhito Hayashi Ezra Pound's *Cathay*

No. 12 (1973)

- 加藤主税 動詞の aspect feature について
- 長谷川存古 完了形について
- Tsuneo Hase On the 'Temptation Scene' of *Othello*
- 仙葉豊 「宗教人」*Robinson Crusoe*
- 薗村喜次 「深夜の霜」—その形式と想像力
- 安藤幸江 「ハイピアリアン」と「ハイピアリアンの没落」の同一性と差異性—(2) 共通の詩行について—その1

- Kazuko Watanabe Time in *Mrs. Dalloway*
 岡 村 祥 子 Eliot の詩劇における二つの道—肯定の道を中心
 に—
 三 浦 良 邦 ハックスリーの探求 (II) —『恋愛対位法』につ
 いて—

No. 13 (1974)

- 加 藤 主 稔 動詞の意味構造について—状態変化と意味—
 長 谷 川 存 古 語用論への一視角
 後 藤 秀 子 'A Verray, Parfit Gentil Knight'—*The Knight's Tale* における人間の nobility
 小 林 恵 子 *Jerusalem* 一考察
 安 藤 幸 江 「ハイピアリアン」と「ハイピアリアンの没落」の同
 一性と差異性—(2) 共通の詩行について—その 2
 Morito Uemura SWINBURNE'S VIEW OF THE WORLD
 SEEN THROUGH HIS SEA-IMAGERY
 Katsuhiro Uenae A DEFENCE OF HARDY'S "FELLOW-TOWNSMEN"
 前 波 清 一 シングと狂気
 岡 村 祥 子 *Four Quartets* についての一考察—二つの道
 三 浦 良 邦 『すばらしい新世界』の二つの社会について
 山 田 美 知 子 *The Pearl*—その技法について

No.14 (1975)

- 後 藤 秀 子 トロイラスとポエチウス
 小 林 恵 子 *Vala or the Four Zoas*—Blake における思想
 的変遷
 蘭 村 喜 次 水夫の〈祈り〉と〈喜び〉

- 木 村 成 子 ジョージ・エリオットのヘロイン達：ロモラ、ドロシア、グエンドレン（I）
- 瀬 尾 素 子 四つの“party”—Virginia Woolf の中期三小説における“moment”
- 川 口 能 久 *The Power and the Glory* における手法とその象徴性
- 松 阪 仁 伺 ポー短編小説の一側面（1）
- 山 田 美 知 子 *To a God Unknown* 一考察

No. 15 (1976)

- 沖 田 知 子 状態変化動詞の意味構造
- 森 田 繁 春 言語学と文学の交わり—構造的文体論一試考—
- Kazuko Watanabe *Time in Oedipus Rex and Macbeth*
- 仙 葉 豊 *Roxana* の主題と構成
- 小 林 恵 子 *Milton* 一考察
- 安 藤 幸 江 「ハイピアリアン」と「ハイピアリアンの没落」の同一性と差異性—(2) 共通の詩行について—その3
- 西 前 孝 ウィンタボーンへの視点—H. ジェイムズ‘Daisy Miller’考—
- 瀬 尾 素 子 後期小説への模索—*Orlando* 一考察
- 白 川 計 子 サミュエル・ベケット論—『名づけぬもの』を素材にして—

No. 16 (1977)

- 加 藤 主 稔 2種の「はじめ」について—日英語比較研究—
- 堀 田 知 子 意志と意図

- Shigeharu Morita A Structural Analysis of Dylan Thomas's "The force that through the green fuse drives the flower"
- 高田 ちさ子 少女エリザベスをめぐって John Donne, *The Anniversaries* 研究
- 斎藤 隆文 ワーズワスにおける風と想像力
- Yoshihisa Kawaguchi Personal Relationships in *Howards End*
- 松阪 仁 / 伺 ポー短編小説の一側面 (2)

No. 17 (1978)

- 長谷川 存古 「発話関数」試論
- Isao Higashimori ON SYNTACTIC, SEMANTIC AND PRAGMATIC PROPERTIES OF POSSIBLY AS A SENTENCE ADVERB
- Taisuke Nishigauchi Notes on Logical Form and Types of Coreference
- 堀 恵子 William Blake の統合的芸術作品, *The Marriage of Heaven and Hell*
- 安藤 幸江 「ハイピアリアン」と「ハイピアリアンの没落」の同一性と差異性—(2) 共通の詩行について—その4
- 米本 弘一 スコットの非合理的世界—『ラマムアの花嫁』における超自然的なるもの—
- 白川 計子 Samuel Beckett 論—*Happy Days* 考—
- Shigeo Suzuki THE ORDER OF THE EXTRAORDINARY EXPERIENCE IN *BENITO CERENO*

No. 18 (1979)

- Isao Higashimori : ADVERBIALS, IMPERATIVES AND PRAGMATIC CONDITIONS
- Yasuhiro Ieki : NOTES ON THE PLUPERFECT WITH SPECIAL REFERENCE TO 'PHASE'
- Keiko Kakuta : Transitive vs. Intransitive Prepositions
- Yoshiaki Kashimoto : On the Semantic Contrast between Epistemic *May* and *Can*
- Taisuke Nishigauchi : QUANTIFIERS, INFERENCE, AND VARIABLE BINDING
- Kiyoshi Miyagawa : MEMORY IN *THE PRELUDE*
- 安藤 幸江 「ハイピアリアン」と「ハイピアリアンの没落」の同一性と差異性—(3)「ハイピアリアン」独自の詩行について—その1
- 西前 孝 自己との対峙—H.ジェイムズ『ある婦人の肖像』第42考
- 森岡 裕一 シャーワッド・アンダソンの処女作—『ワインズバーグ・オハイオ』への道—
- Keiko Fujie : HEMINGWAY AS A TECHNICIAN IN *A FAREWELL TO ARMS*
- 三浦 良邦 『多くの夏を経て』について—神秘主義思想を中心
- 田口 哲也 或る遁走—T. S.エリオットの詩に現われる—海と鷗に関するノート
- No. 19 (1980)
- 沖田知子 進行形の原理
- 家木康宏 Phase と Aspect
- 竹鼻圭子 動詞小詞結合と有標語順

村主幸一	新しい共同体の出現— <i>King Lear</i> のヴィジョン
Chisako Aramaki	The Pilgrimage with Paradox
Kiyoshi Miyagawa	Creative Sensibility in Wordsworth's Poetry
米本弘一	スコットの調和のヴィジョン—Guy Mannering論—
植苗勝弘	ハーディの短篇小説にみられるエロチズム
Keiko Oshio	The Sense of Parody in <i>Ulysses</i>
田口哲也	不毛の地の犬—エリオットのニヒリズム—
Keiko Fujie	Hawthorne's Light & Dark in <i>The Scarlet Letter</i>
Yuichi Morioka	The American Dream & The Grotesque—The Novels of Nathanael West—

No. 20 (1981)

藤井治彦	あの頃の私たちのこと
藤田実	<i>Prelude</i> と <i>Osaka Literary Review</i>
石田久	O. L. R. 発刊20年に寄せて
枠田良一	<i>Osaka Literary Review</i> 誕生
森晴秀	創刊当時を思う
梅垣清	創刊号のころ
東森勲	Not+Stillについて
柏本吉章	述語の断定性と補文の文性
Mari Sakaguchi	A Phrasal Analysis of Passive Constructions
Keizo Nomura	THE THAT-CLAUSE REVISITED
田口まゆみ	『ガウイン卿と緑の騎士』における象徴性と宗教性
村主幸一	溶解する宫廷— <i>The Tempest</i> と宫廷神話

Kazuhiko Murai	Strumpet Fortune: A Study of Shakespearean Tragedy
鈴木繁夫	「強き強者」と「弱き強者」—ミルトンの二つの人間像—
安藤幸江	「ハイピアリアン」と「ハイピアリアンの没落」の同一性の差異性—(3)「ハイピアリアン」独自の詩行について—その2
小野慶子	テニソンと海
Keiko Harada	Dramatic Aspects of Eliot's Poetry
藤江啓子	<i>The House of the Seven Gables</i> におけるHawthorneの時間
大塩恵子	Wallace Stevensの海の寓話
Katsuaki Watanabe	Hemingway and the Ritual

No. 21 (1982)

森田繁春	詩的隠喻に関する覚え書
川越いつえ	英語語強勢決定のメカニズム—強勢型と音節の重さの関係—
村井和彦	Shakespeare 悲劇における'plotter'たち
Kaori Yamatsu	Miranda as a "Maid"
Takako Haruki	Keats through his use of metaphors in <i>Isabella</i> , <i>The Eve of ST. Agnes</i> and <i>Lamia</i>
新野緑	<i>Bleak House</i> の空間—Lady Dedlockを中心として—
川口能久	蠅の王と四人の少年たち
松阪仁伺	森とカーニヴァルの世界—ホーソーンの"The May-pole of Merry Mount"論—
Keiko Fujie	To Regain Paradise by Lifting a Veil

No. 22 (1983)

- 家木 康宏 *Already, Now* と「局面の変化」
- 川越 いつえ 文強勢型と韻律理論—非語彙項目の取り扱いをめぐって—
- 由本 陽子 使役表現の選択に関わる意味素性
- Asako Miyagawa Dualism in *The Castle of Perseverance*
- 山津 かおり *The Winter's Tale* 試論—Perdita 発見
- 服部 典之 *Roderick Random* における二重逆転構造
- 春木 孝子 キーツの人格化の比喩—“Ode on Melancholy”と“*To Autumn*”をめぐって—
- Keiko Ono Dreams in *In Memoriam*
- Katsuaki Watanabe *Henderson the Rain King* : Bellow's Festival

No. 23 (1984)

- 野村 恵造 ヴィトゲンシュタインとオースティン—語の意味論と文の意味論—
- 堀 環 補文選択の意味的考察
- Mari Takahashi Children's Misinterpretation of OS-relatives
- 針木 蓮一 The VP-attachment Analysis
- 畠永 英夫 Before 節の時制構造に関する一考察
- 山津 かおり 『お気に召すまま』 試論—愛の空間と帰還—
- 新野 緑 *The Parish* とクレアの社会批判
- 服部 慶子 二つの円環—*Hard Times* の空間構造—
- Keiko Oshio おとぎ話の鏡像としての“Balin and Balan”—*Idylls of the King* 考察—
- The Revisionist Voice of T. S. Eliot in the “Notes” Toward *The Waste Land*

Chiyo Yoshii

Isabel's Self-education in *The Portrait of a Lady*

No. 24 (1985)

Mari Sakaguchi

The Acquisition of Passives

Mari Takahashi

More On the VP-attachment Analysis of OS-relatives

刀 祢 雅 彦

時間表現の意味構造とその分析

山 津 かおり

プリトマート考察—甲冑と金髪との間で—

佐 野 隆 弥

『終わりよければすべてよし』試論—病いと治療をめぐって—

Keiko Harada

Edward Thomas: Time and Modern Sensibility

Masaki Shibata

Reading and Misreading *Ulysses*

好 井 千 代

剩余の力学—*What Maisie Knew*—考—

No. 25 (1986)

由 本 陽 子

Un-派生語の逸脱性について

Keiko Harada

“At death, you break up”—Philip Larkin’s struggle with mortality—

服 部 慶 子

Arthur 王の死——*Idylls of the King* 考

渡 部 充

線的世界からモザイク的世界へ—『四つのゾア』とブレイクの時間

好 井 千 代

The Princess Casamassima における曖昧性の意味

No. 26 (1987)

東 條 良 次

情報価付与と修正関係

梅 原 大 輔

Small Clause と補部選択

- Masumi Matsumoto A Study on the Prepositional Passive
 柴田正樹 「さまようこと」の意味—『間違いの喜劇』試論—
 富田成子 *Romola* とルネサンス絵画
 植苗勝弘 'Old Mrs Chundle'私論
 Keiko Harada History in Layers The Sense of the Past in
 Thomas Hardy's Poetry
 Yoshio Ise The Discrepancy of Marlow's Narration:
 Romanticism and Utilitarianism in *Lord Jim*

No. 27 (1988)

- 梅原大輔 英語における時制の不一致—Anchoring の視点
 から—
 田岡育恵 副詞類の出現位置について
 溝手真理 愛のヒエラルキー—『妖精の女王』第三巻・四巻
 一考—
 Sayuri Yamatsu Respect and Concord: A Study of *A Midsummer Night's Dream*
 小島裕子 *Richard II* における「王」という名前についての
 一考察—
 渡部充 無化する詩人—『ミルトン』におけるブレイクの
 自己回復—
 Reiko Uno The Leaf-encumbered Forest: Mrs Dalloway's
 Ego
 伊勢芳夫 *Nineteen Eighty-Four* における Orwell 的反動
 Keiko Oshio Benji Compson and the Crisis of Articulation:
 Two Post-Modern Readings of *The Sound and
 the Fury*

No. 28 (1989)

濱 本 秀 樹

感情形容詞のファジイ理論による分析

吉 村 あ き 子

yetについての一考察—yet, already, still, any more,と「まだ」と「もう」—

白 谷 敦 彦

IT-cleft 対 WH-cleft—語用論的研究—

Umeshara Daisuke

On the Licensing of Perception Verb Complements

大 森 文 子

提喻に関する一考察

田 岡 育 恵

「譲歩」の When と「時」の When

東 條 良 次

文法関係と語順—視点理論との関連で—

溝 手 真 理

崩れ落ちる要塞—『羊飼の暦』試論—

Yoshiko Imagawa

Degeneration and Irony in Doctor Faustus

山 津 さ ゆ り

修辞と行為—『マクベス』試論—

Keiko Oshio

“The Magi” and Modernist Imagery

伊 勢 芳 夫

Jim と Kurts—Marlow 船長の語りに隠されたこと

宇 野 玲 子

創作への意思—Jacob's Room 試論

No. 29 (1990)

早瀬 尚子

「鬼」はどこから来たか

Hiroyuki Ura

A NOTE ON INFINITIVAL COMPLEMENTATION IN ENGLISH

濱 本 秀 樹

形容詞の比較級について

吉 村 あ き 子

everについての基礎的考察

岡 田 権 之

結果の二次的述語の拡張行為について

Atsuhiko Shiratani

RESTRICTED USE OF CLEFTS IN DISCOURSE

- | | |
|------------------|---|
| 光 原 百 合 | 修辞学的逆説の一分析——アイロニーとの関連から |
| 山 崎 英 一 | 関連性理論における疑似条件文 |
| Mari Takahashi | The Acquisition of Echo Questions |
| 山 津 さ ゆ り | 『オセロー』試論—知性と情動— |
| Miyoko Murai | The Metamorphosis of La Belle Dame sans Merci |
| Yuriko Nishimura | A Story in Search of its Meaning: Conrad's <i>Heart of Darkness</i> |
| 伊 勢 芳 夫 | 価値と視点—— <i>The Good Soldier</i> のレトリック |
| HARUKI Takako | ABSENCE AND PRESENCE IN THE POEMS OF PHILIP LARKIN |
| Mizuho Ota | Completing a Circle: Alice Walker's <i>Meridian</i> |